

## 新スタッフから

## いつも笑顔で寄り添いながら

小澤ゆきえ（温暖化対策班）

5月からお世話になっています。3月までは地元自治体に所属して、こどもエコクラブを中心に、主にこども達と環境保全活動に取り組んできました。たくさんの恵みをいただいている自然に感謝し、私たち人間もその中の一部であることを感じられたらと山や川などに出かけて動植物の観察をはじめとした体験的な活動をしてきました。活動は「元気に楽しく」「とりあえずやってみよう」をモットーとしています。「環境活動をするぞ!」と身構える必要はありません。日々の暮らしぶりや生活を見直すことは環境問題を考える時の基となります。「生活は環境そのもの」そんな言葉で伝え、身の回りを見渡すことから始めました。私の立場は何かを教えるというのではなく、対等な立場で寄り添い一緒に考えるところから出発し、解決のためのてがかりを探す手伝いをする、そんな感じでしょうか。

これまでに関わったこども達の中には、「自分のライフワークとして環境に関わっていきたい」とい

う人も育ってきています。そんな報告を受けるたび誇らしく思うのと同時に、体験すること、そのための場や機会があること、それを支え一緒に考えてくれる大人がそばにいること、その必要性を強く感じます。「あっ、小澤さ～ん」と友達のように手を振って駆け寄ってきてくれるこども達、そんな姿が何よりうれしいです。これからの社会を創造していく人が育つことを願いつつ、これからも応援していきたいと思います。



火起こしに挑戦!

## こんな本みつけた!

## 読書案内

## 『雑草とあそぼう』

編：やまだたくぞう 絵：しまむらゆかり  
農山漁村文化協会 1996年 全36頁 1680円(税込)

2冊の絵本を紹介いたします。発行年は少し前のものですが、今日も笑顔に会えそうです。

1冊目は「雑草とあそぼう」。『校庭の自然とあそぼう』シリーズ(全10巻)の1冊。こどもたちにとって最も身近な自然に目をむけるためのガイドブック(著者)的な絵本です。紹介されているひとつひとつの遊びはわかりやすく図解されていて、巻末には遊べる季節の一覧や少し詳しい解説もあります。楽しくておいしい雑草クッキングも載っています。オオバコの草ぼうもうに負けて悔しかったことや、ペンペン草のシャラシャラにうっとりしたり、こどもの頃の楽しかったあの時を思い出して思わず微笑んでまいそうです。こどもたちには、新たな遊びを指南してくれる頼れるお師匠さんになってくれることでしょう。

もう1冊は「木の本」。四季折々の木々やその花、果実の様子、葉の形や葉脈の一本一本、秋の葉の色づき具合までもがリアルです。『木の芽ばえ』って知っていますか? 大人になった木は知っていても、その木の赤ちゃん時代を

## 『木の本』

作：萩原信介 絵：高森 登志夫  
福音館書店 1986年 全67頁 1680円(税込)

知る人は少ないのではないのでしょうか。そんな木々に関する、うっかりすると見落としていそうな、目を凝らさないと感じることができないだろうことも、この本の中にはちゃんと描かれています。後半に索引と解説もあり、公園や雑木林に出かけるときに思わず持ち出したくなる樹木図鑑のような絵本です。

飯綱庁舎ではどちらの図書も展示していますので、手にとってご覧いただけます。(紹介者 小澤ゆきえ)

